

# 志賀町北吉田フルワ遺跡の高地性集落について

久田正弘

## 1 はじめに

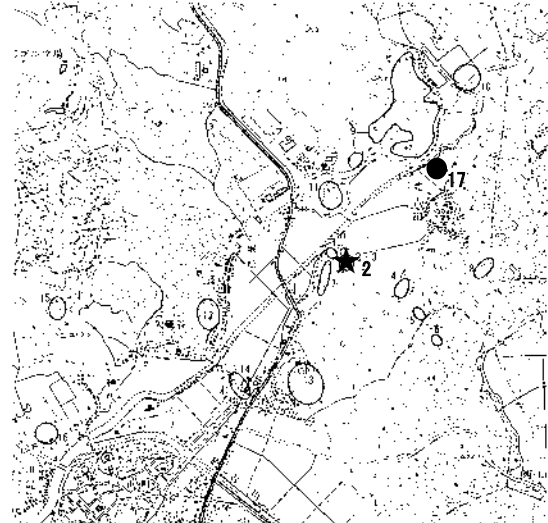
能登地方で少ない高地性集落の一つ、志賀町北吉田フルワ遺跡（第1・2図2垣内ほか1993）を検討してみたい。遺構の変遷（第3図）は、第1段階第4～14号竪穴住居の構築：北方溝Ⅰの開削、第2段階北方溝Ⅰの廃止：第1～3号竪穴住居の構築：南方溝と北方溝Ⅱの開削、第3段階遺跡の廃絶（P60）とされたが、南方溝・北方溝Ⅰが同時に開削（P62）との記載があり、矛盾がある。また、環濠の断面図では変遷が想定されるが、記載が無いので土器も含めて原図を基に検討した結果を紹介したい。

## 2 遺構の検討

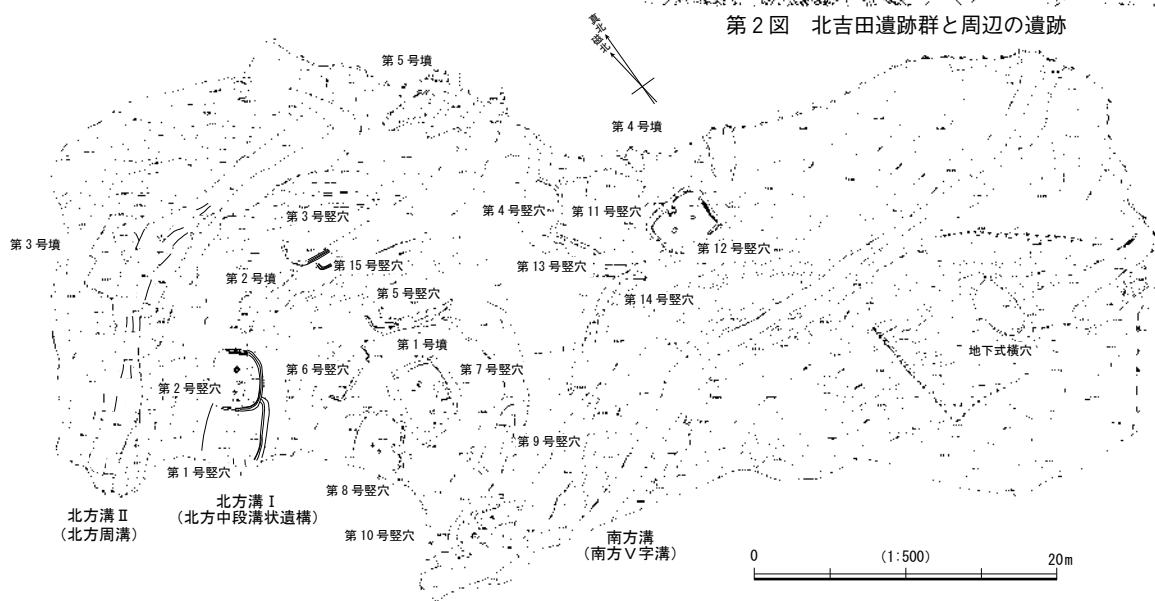
まず、丘陵上の竪穴住居は全て小型であり、遺跡の開始～廃棄まで継続したと思われるが、北方斜面に立地する第1～3号竪穴住居（以下何号住と省略）は北方溝Ⅰを切っており、開始期よりは新し



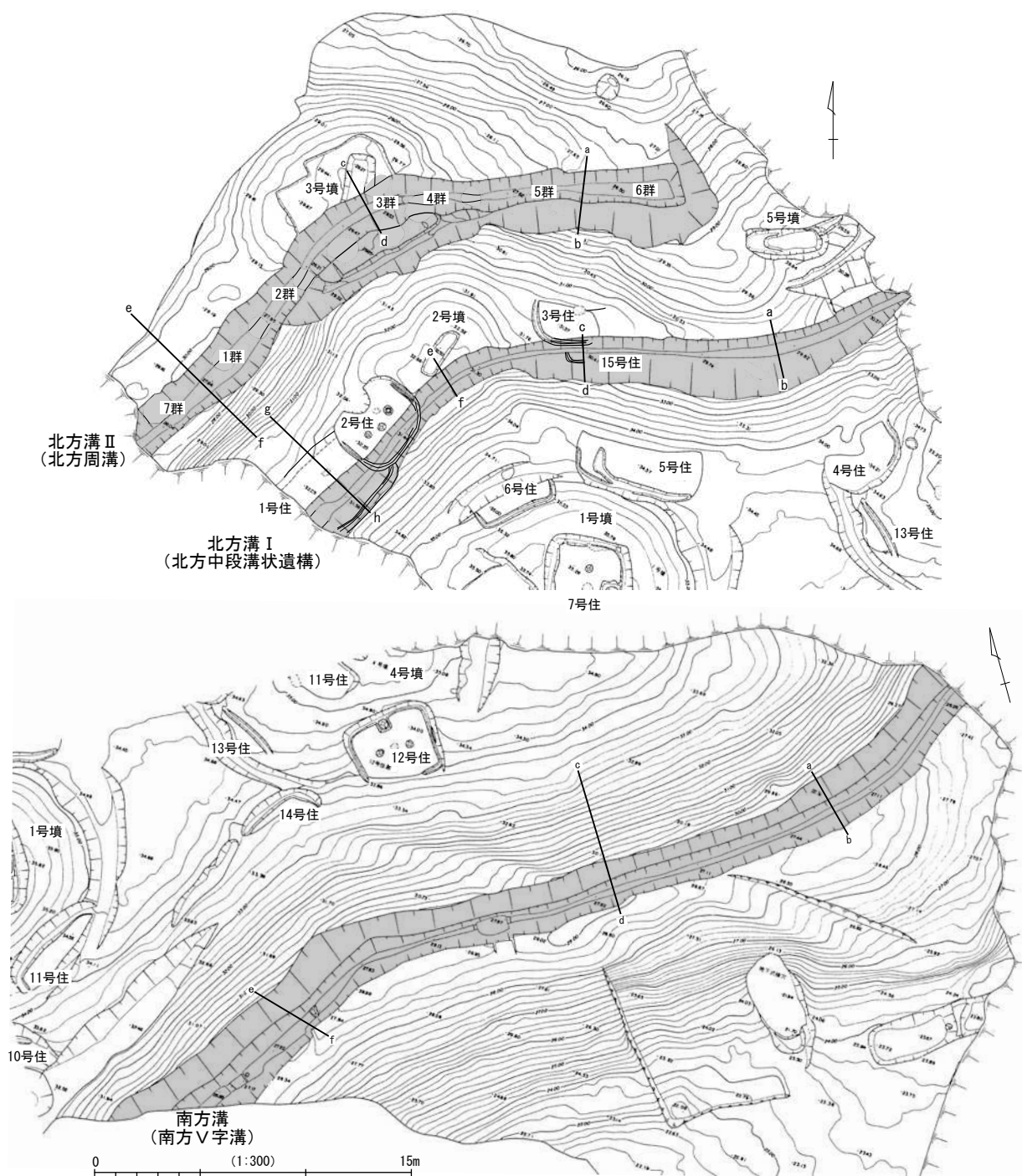
第1図 遺跡の位置



第2図 北吉田遺跡群と周辺の遺跡



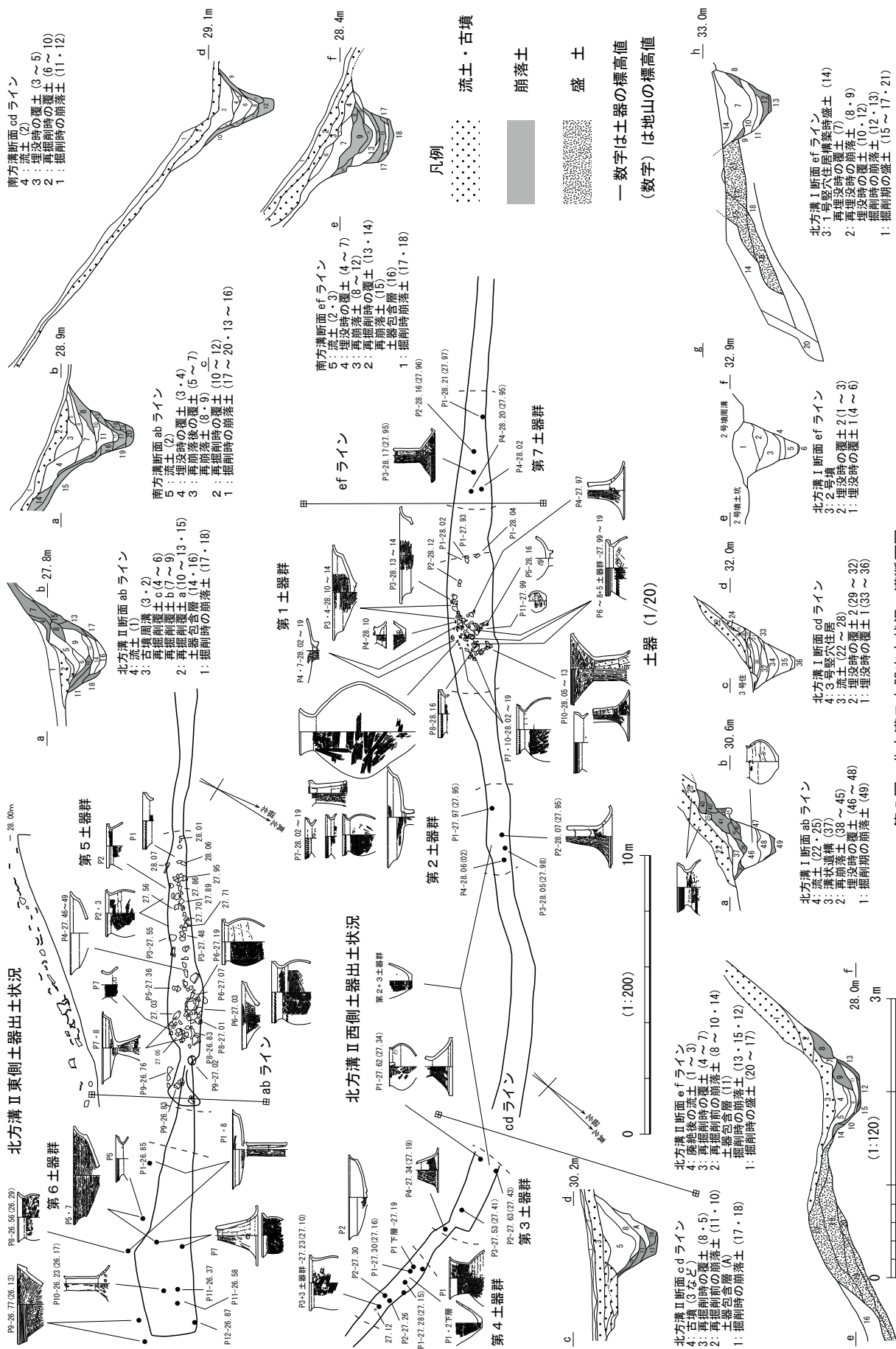
第3図 北吉田フルワ遺跡・フルワ古墳群全体図



第4図 環濠実測図 (1/300)

いと判断した(第3図、表1)。2号住は1号住より新しいとされたが、第58図abラインから1号住の方が新しい。3号住の山側にも壁溝が確認されるので、15号住を想定したい。10号住出土30～37は厳密には下側の近世溝からの出土である。

環濠群(第4図)をみてみたい。南方溝abラインは掘削期埋没が2期(17～20:13～16層)、再掘削1(10～12層)・再掘削2(5～7層)、最終埋没3・4層が確認される。cdラインは掘削期埋没11・12層、再掘削期覆土6～10層、最終埋没3～5層、流土2層が確認される。efラインでは8層以下がV字溝とされ、掘削期覆土16～18層:15層、再掘削期覆土13・14層:8～12層、最終



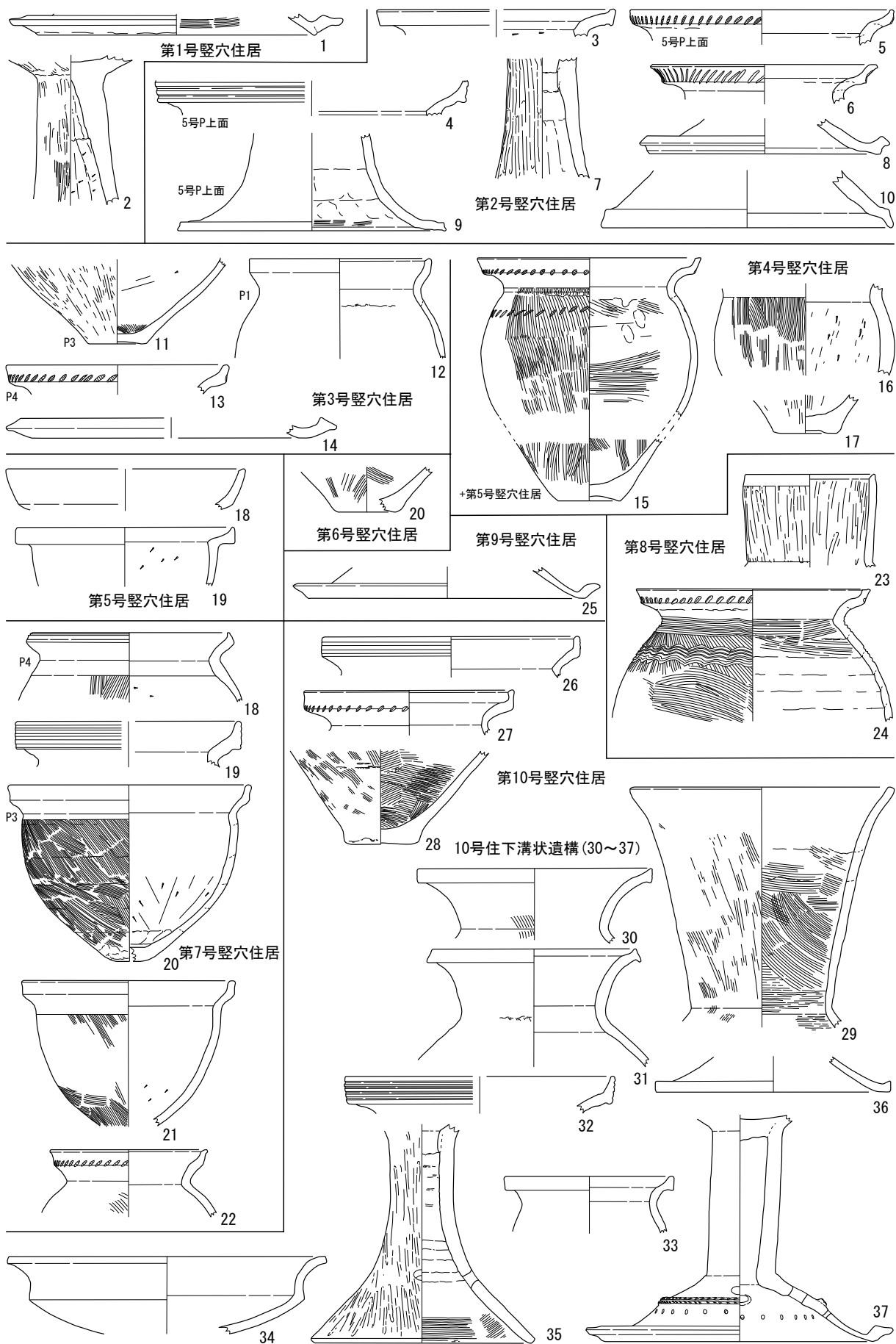
埋没4～7層、流土2・3層が確認される。土器は2～6区に分けて取り上げられたようだが区割り図が確認できず、斜面流土中(51・52・58～64)や1号墳周溝(91・92、9号住?)や2号墳周溝(93、北方溝Ⅰ)も南方溝出土とされている。また、北方溝Ⅰabラインでは、掘削期覆土(46～49層)、崩落土38～45層、溝状遺構37層、流土22・25層の4期が確認される。94は環濠出土だが65～102は環濠埋没後の溝出土であり、103・104はその後の流土出土である。cd・ef・ghラインでは埋没時2期が確認され、1・3号住居や2号墳に切られている。北方溝Ⅱabラインでは調査時に4段階(13～18層、7～12層、4～6層、2・3層)が認識されたが、1段階掘削期覆土14・16～18層、2段階再掘削期覆土3期(10～13・15層:7～9層:4～6層)、3段階古墳周溝2・3層、4段階流土1層を想定したい。cdラインは環濠と古墳の2段階だが、環濠では3期(掘削期埋没17・18・A層:再崩落土10・11層:再掘削期の覆土5・8層)が想定される。efラインでは掘削期埋没11～13・15層、再崩落土8・9・10・14層、再掘削期の覆土4～6層、流土1～3層が想定される。これらの検討から、遺構群の変遷(表1)を想定した。南方溝と北方溝Ⅰは掘削～埋没まで1段階3期が想定される。北方溝Ⅰを溝状遺構と1・3号住が切っており、1・3号住の前には2・15号住が想定される。溝状遺構と2・15号住と同時に北方溝Ⅱが掘削され、南方溝の再掘削が行われたと想定される。南方溝の再掘削2と北方溝Ⅱの再掘削は同時期と想定したい。北方溝Ⅱでは、土器が第1～7号土器群に分けて取上げられ、第1・5号土器群の出土が多く、詳細な調査記録が報告書には掲載されていない。107は1号竪穴住居下西方斜面流土中なので、第7号土器群とした。第1土器群115は第5土器群、第2土器群138は第3土器群、第4土器群146は第3土器群、第6土器群172は第1土器群と接合関係が確認される。また、北方溝Ⅱ出土とされていた173～175は、遺構名から北方溝Ⅰの可能性が高いようだ。

報告書では、丘陵性集落の環濠は防御性より区画性を重要視したいとされたが、区画ならば丘陵上を横切る溝を掘るべきであり、丘陵斜面に深さ0.9～1.4mの溝を掘る必要はなかろう。遺跡は志賀町高浜方面から志賀町富来方面や七尾市大津方面に抜ける交通の要衝に位置し、四方を見渡せる丘陵上に立地する。北吉田フルワ遺跡の母体は、平成25～27年度に調査された北吉田ノシロタ遺跡(第2図17)などが想定されよう。

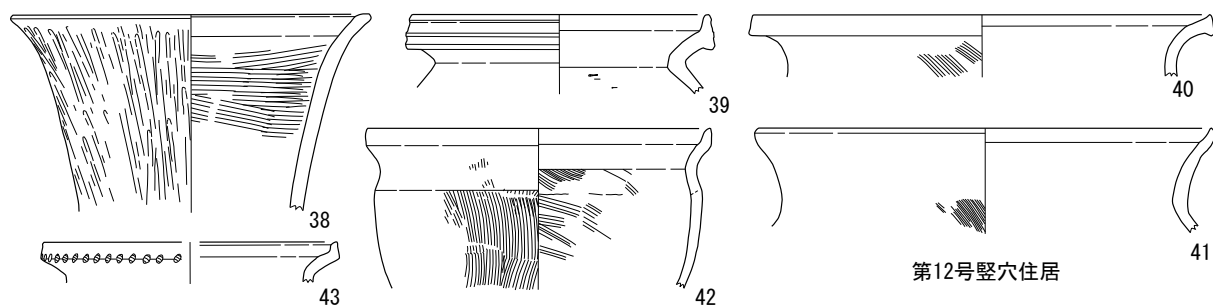
第1表 遺構変遷対比表

遺構名／段階		1 段階			2 段階				3 段階		4 段階
		後期前半～中葉							中葉～古墳前期		古墳後期
南方溝	abライン	掘 削	埋没1	埋没2	再掘削1	埋 没	再掘削2	最終 埋没	流 土		
	cdライン	掘 削	埋 没		再掘削	埋 没					
	efライン	掘 削	埋没1	埋没2	再掘削	埋没1	埋没2				
丘陵上竪穴住居		構築 → → → → →			廃 棄		1・4号墳				
北方溝 Ⅰ	abライン	掘 削	埋没1	埋没2	溝 状	流 土					
	cdライン	掘 削	埋没1	埋没2	流 土	3号住					
	efライン	掘 削	埋没1	埋没2	2号墳						
	ghライン	掘 削	埋没1	埋没2		1 号住					
北斜面竪穴住居					2号住	1号住		廃 棄			
					15号住	3号住					
北方溝 Ⅱ	abライン				掘 削	埋 没	再掘削	最終 埋没	流 土	3号墳	
	cdライン				掘 削	埋没1・2	再掘削				
	efライン				掘 削	埋没1・2	再掘削		流 土		

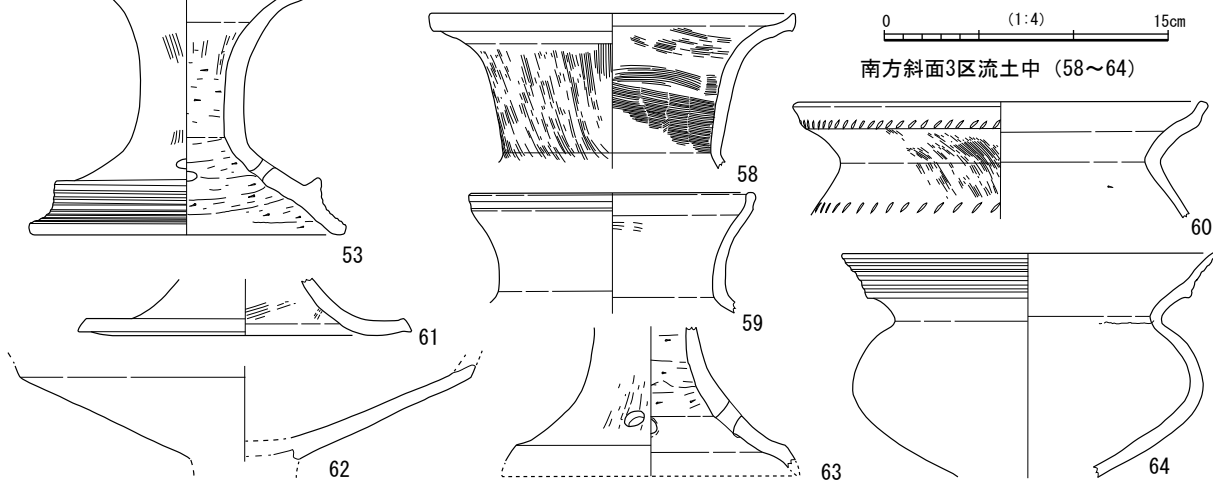
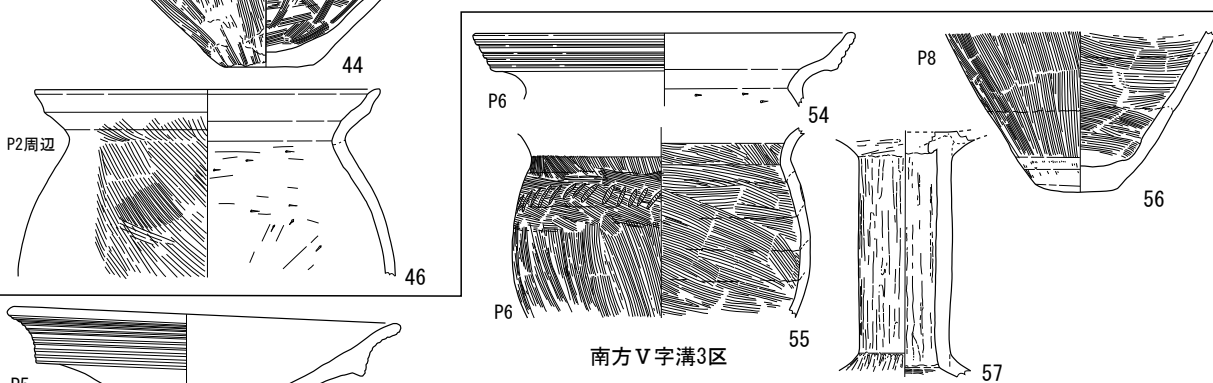
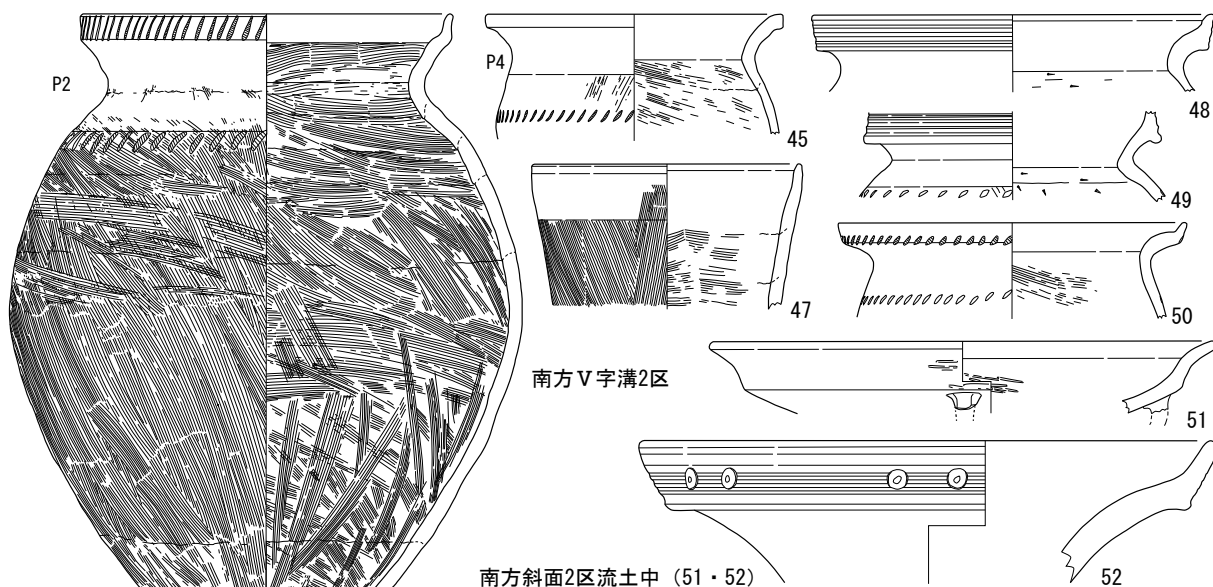




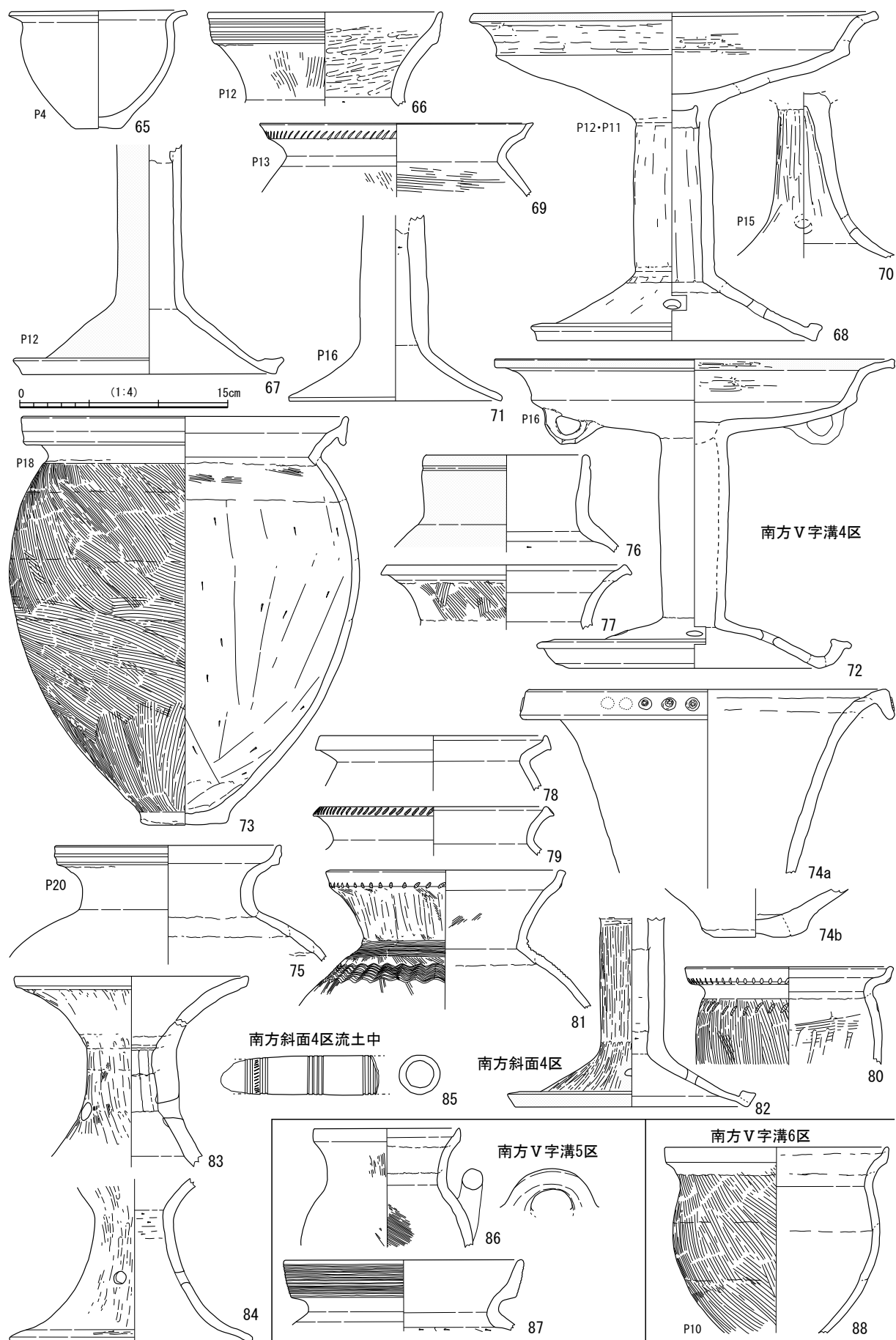
第6図 竖穴住居等出土土器



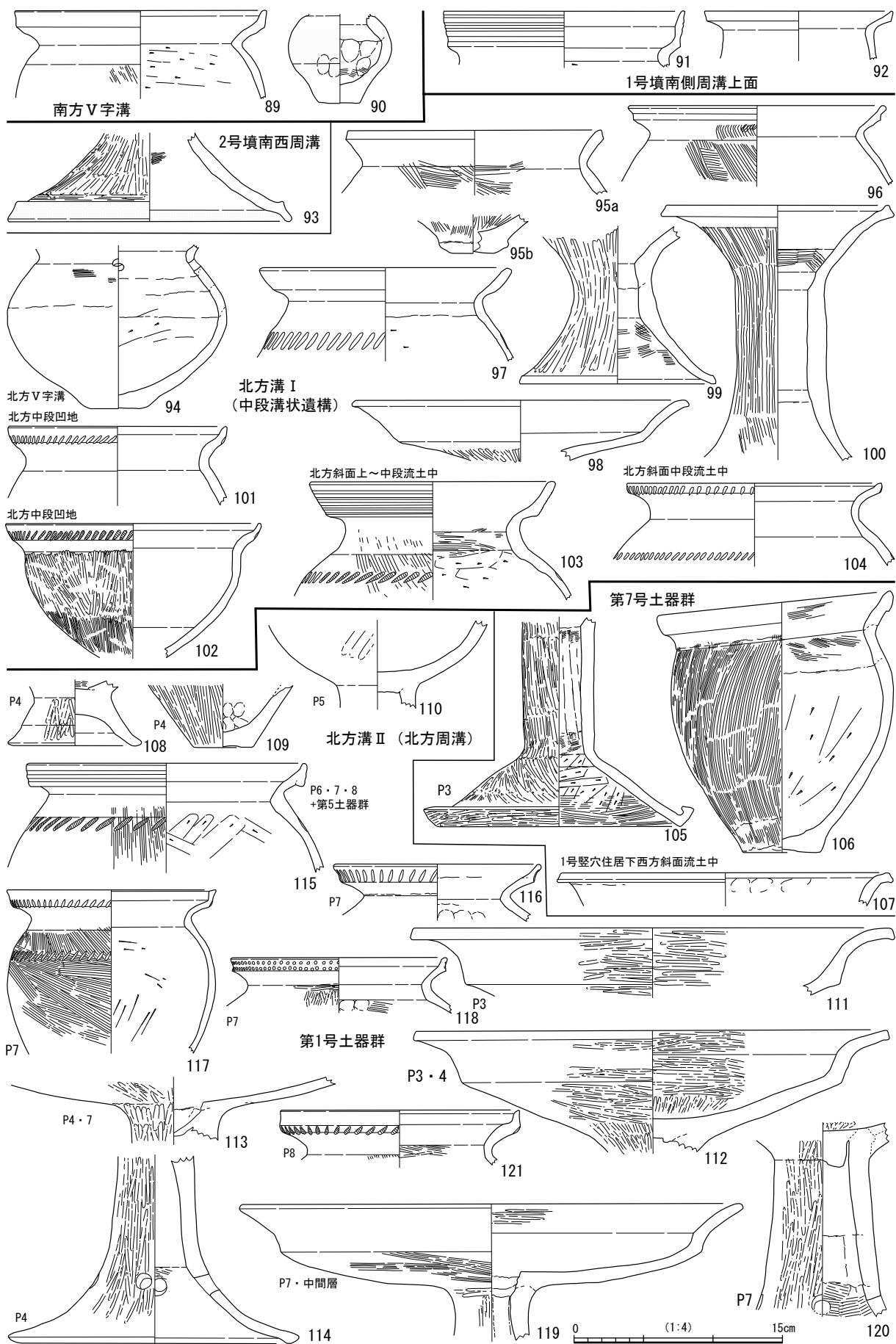
南方溝（南方V字溝）



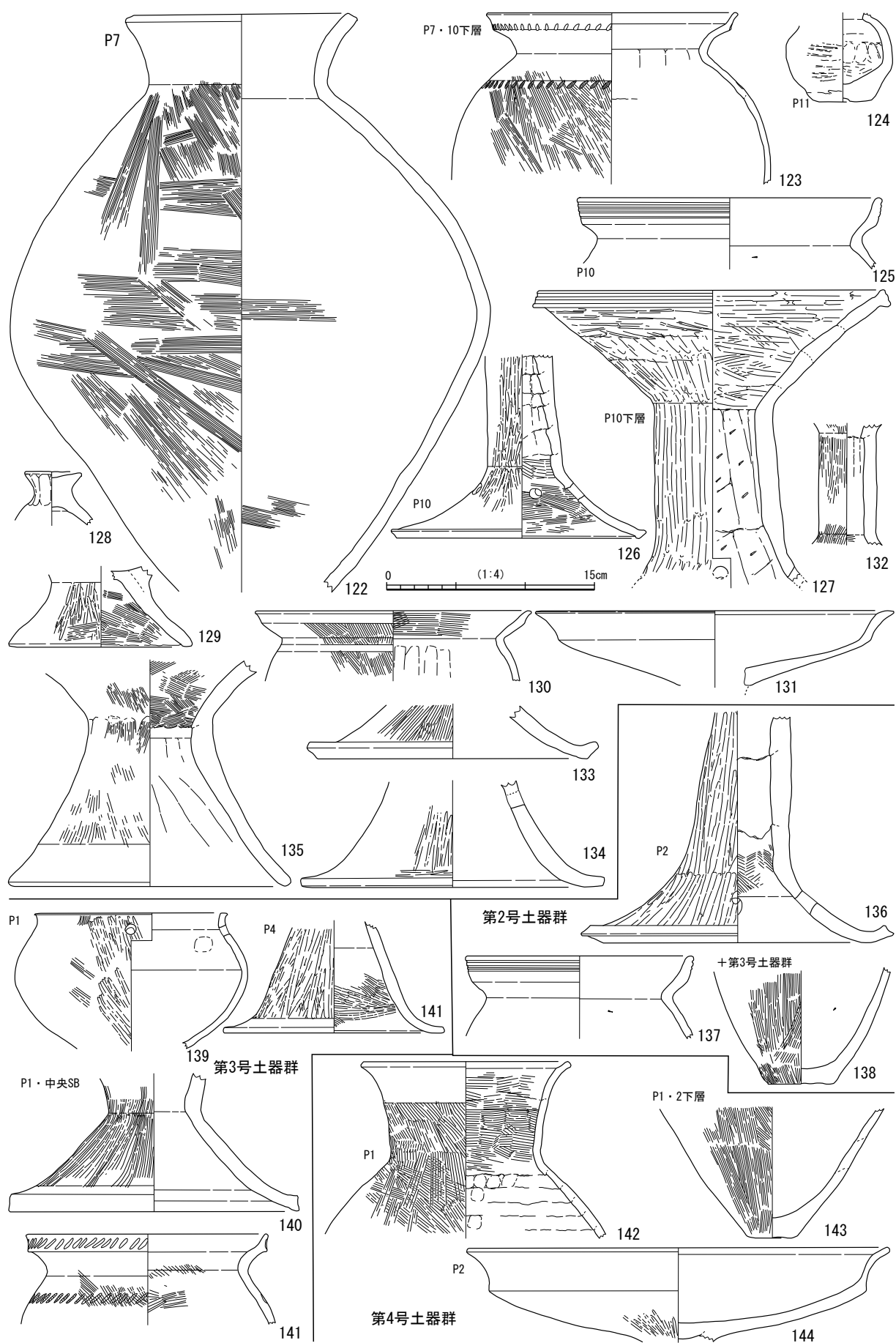
第7図 南方溝等出土土器



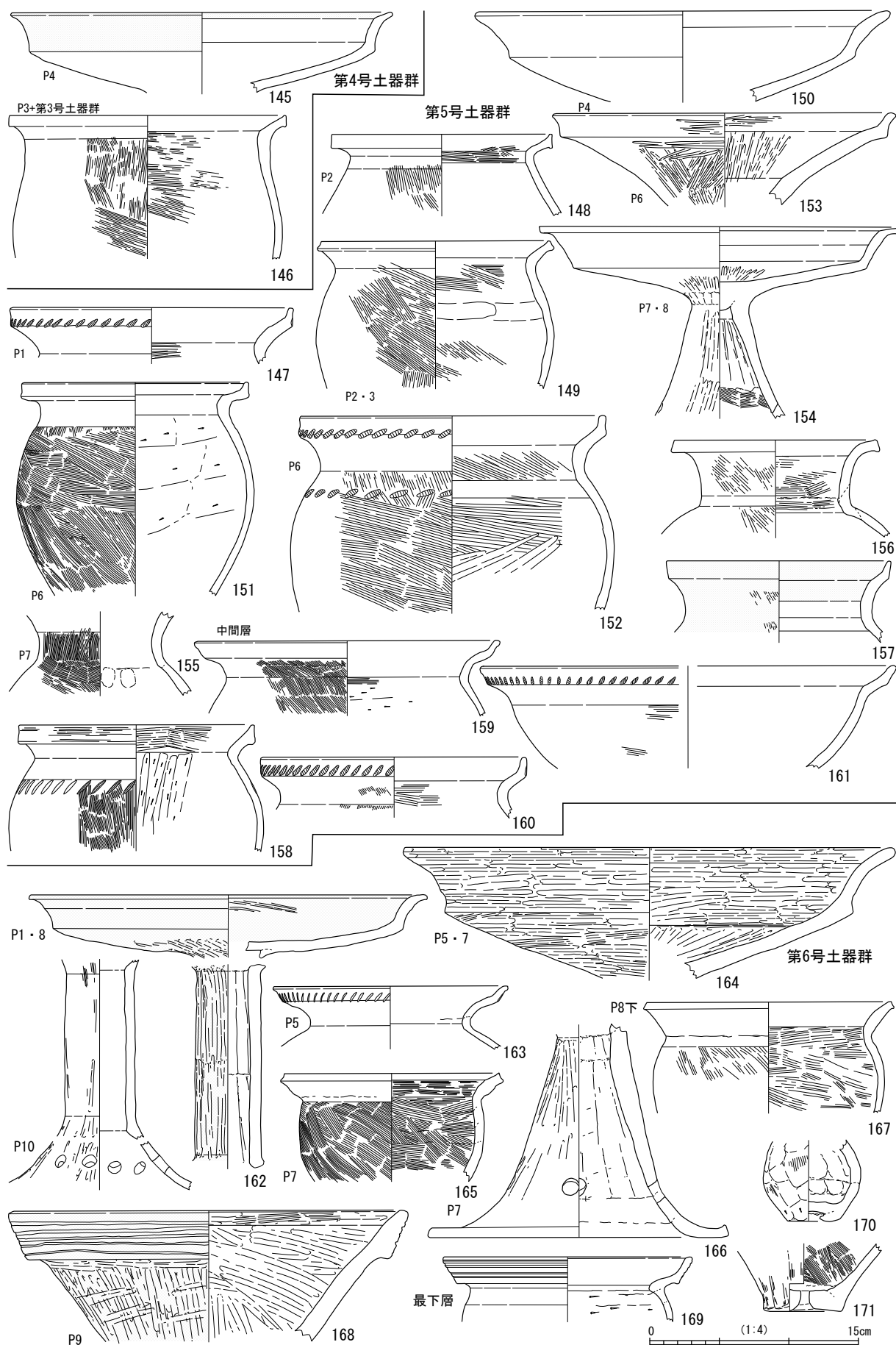
第8图 南方溝出土土器



第9図 南方溝、北方溝I・II出土土器

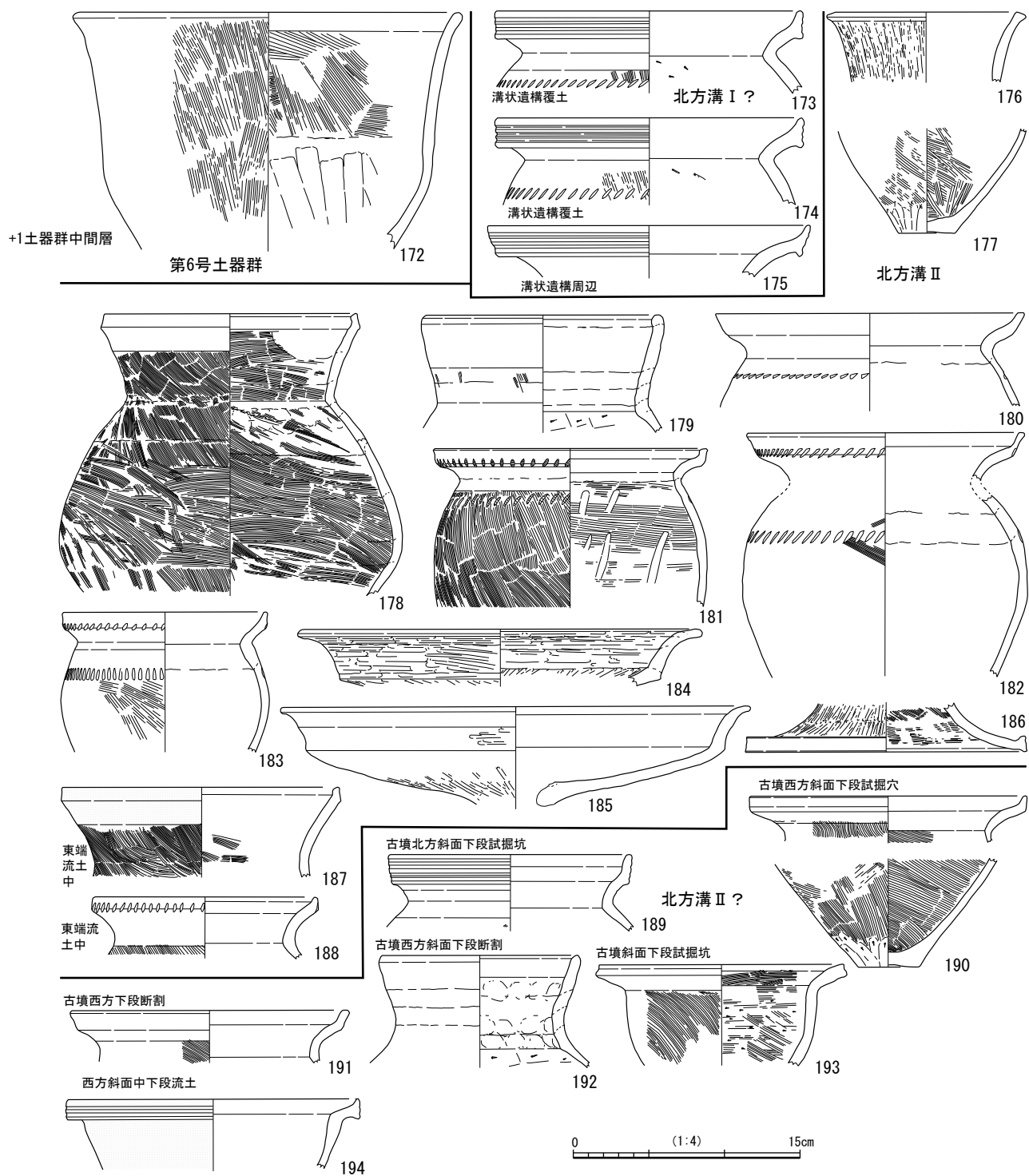


第10図 北方溝Ⅱ出土土器1



第 11 図 北方溝Ⅱ出土土器 2





第 12 図 北方溝 II 等出土土器

### 3 土器の検討

報告書では、後期前半の猫橋式を中心とされた。北陸地方の後期土器の指標となる有段疑凹線口縁甕をみてみたい。39・49は口縁部が少し内傾するタイプと思われ、中期末戸水B式の流れを持つと思われる。他は19などのように口縁部が短く上に伸びるタイプが主体であるが、少し長めの口縁部を持つ152・189、やや長い口縁部を持つ87・91も少し確認される。73は下側に口縁部を拡張する。87は後期後半の法仏式、91は法仏式以降の可能性もあろう。有段無文口縁甕の12・20なども口縁部は上に短く伸びるタイプであり、上に長く伸びる18は少ない。73は下側に口縁部を拡張するタイプである。能登地方に多くの字甕は、口唇部に疑凹線を持つ18は少なく、口唇部を幅広な面取りをする40・42などがあるが、口唇部の形態には差がある。甕とされた54・169は形態などから有段鉢、壺とされた52は器台であろう。74aは口縁部に円形浮文が3個残っており、2個の剥離が確認される。生駒西麓産の可能性も想定したが、茶褐色系であるが角閃石を含まないので違うようである。近年では、生駒西麓産壺は金沢市大友E遺跡で報告がある（楠ほか2021）。高坏の脚部折り返しは、短い8・67・68・82などが多く、上に少し上がる72・105、やや長い1・37もある。受部は口縁部が上に直線的に立ち上がるものは無く、弓状に短く外反する145は少なく、大きく外反するものが多く、やや新しい様相が多い。口縁部内側に面を持つ68・72・154などもある。受部に半環状把手を持つ51・72は少ないが、半環状把手は西念・南新保2-4・3-1期（楠1996）にある。有段鉢54・64・169は法仏式のヘルメット型ではないので法仏式より少し古いのであろう。

### 4 まとめにかえて

遺構の変遷は大きく2段階7期が想定されるが、各期は同じ時間幅ではないであろう。土器は猫橋式～法仏式初頭の時間幅が想定される。法仏式初頭は法仏I式であるが、これは田嶋氏のV-3群（広義の猫橋式、田嶋2007）にあたる。久田2004第9図下側は猫橋後半～後期中葉の2段階に修正し、概ね後期前半～中葉（3段階）に北吉田フルワ遺跡も併行するのであろう。今回の検討を行った理由は、図版や記載内容に違和感を持ったからでもあり、土器のトレースは全て筆者が行った。その結果、新たな問題も明らかになった。

能登地方では後期前半の資料が少なく、筆者の解釈にも不備は多いと思われるが、この報告を基にして新たな視点で検討を願いたい。伊藤雅文、林 大智、和田龍介氏から協力を得た。

### 参考文献

- 垣内光次郎ほか 1993『北吉田遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター  
金山哲也・関 晃史 2015「北吉田ノシロタ遺跡」『石川県埋蔵文化財情報第34号』（財）石川県埋蔵文化財センター  
楠 正勝 1996「弥生時代中期後葉から古墳時代前期前半の土器」『西念・南新保遺跡Ⅳ』金沢市教育委員会  
楠 正勝ほか 2021『大友E遺跡』金沢市埋蔵文化財センター  
田嶋明人 2007「法仏式と月影式」『石川県埋蔵文化財情報第18号』（財）石川県埋蔵文化財センター  
端 猛 2016「北吉田ノシロタ遺跡」『石川県埋蔵文化財情報第35号』（財）石川県埋蔵文化財センター  
久田正弘 2004「南加賀地方における弥生時代の一様相」『石川県埋蔵文化財情報第11号』（財）石川県埋蔵文化財センター